

令和 6 年度 学校評価報告書 1 (計画段階 ・ 実施段階)

学校名	福岡市立福岡高等学校		学校経営方針・学校教育方針	今年度の重点目標	評価 (総合)	
学校長	ふりがな	とう きくえ	志を持ち、自らの目標を達成しようとする生徒と、意欲的・建設的に学校運営に努力する教職員の協働により、「熱・意気・力」の校訓を具現化した持続可能な学校をつくる。 そのために、すべての教職員が元気で生徒が安心して学べ、成長できる学習環境づくりと学力向上による進路実現をめざし、生徒に誇りと自信を持たせる教育活動を実施する。 また、市民からの期待と信頼をさらに高めるために、福翔改革を推進し、本校の新たな歴史を切り開く学校づくりを進める。	1. 組織的な学校運営と危機管理の徹底 「すべては生徒のために」を常に意識し、主任主事を中心に教職員のもっている力を結集して、各部、各教科等が連携し、組織的に生徒の指導や校務運営にあたることも、日常的に危機意識をもち、起こらうことを想定しながら教育活動を行う。 2. 福翔改革サードステージ第2章の推進と「授業改革委員会の活性化 キーワード「総合学科」「伝統×時代」「授業改善×アントレプレナーシップ教育」のもと、昨年度決定事項を着実に実行するとともに、前例にこだわらない新たな視点と自由な発想で、学校行事や入試などを含めた学校課題を解決し、改革を推し進める。 3. アントレプレナーシップ教育の推進 「産業社会と人間」「総合的な探究の時間(デザイン思考)」及び「ジュニア・アチーブメント・プログラム(ジョブシャドウ・SCP・ミーツ)」等、全教職員で組織的に取り組んできた福翔キャリア教育に加え、様々な経験・体験を提供することで新たな学びを与え、福翔アントレプレナーシップ教育を確立させる。また、社会のDX化にも柔軟に対応できるようなデジタル人材を育てていく。 4. 希望進路の実現と年内入試への取組の充実 総合学科の強みを活かしながら、個々の進路に応じた学力の定着を図る。そのためには、指導と探究の一体化を図り、より良い観点別評価の在り方について、模索する。また、年内入試を挑戦のための入試と捉え、安易な受験とならないよう指導するとともに、必要な環境を整えていく。その方として、年内入試で活用できる資格取得、小論文、口頭試問などの対策についてブラッシュアップしていく。 5. 部活動の活性化 部活動は本校にとって、重要な位置づけであり、文武両道、生徒募集、人間力を磨く観点からも部活動の活性化を推進する。 6. 生徒指導・生徒理解の深化 規範意識を醸成するとともに、心を育てる教育の充実を図る。高校生としての人間感覚を磨き、自己肯定感を高めるため、学級や部活動などにおける集団作りを意識することで、より良い人間関係が作れる土壌を整える。 7. 働き方改革への取組継続 ワークライフバランスの確立や生徒と向き合う時間の確保を目指し、業務改善を引き続き模索する。職員がお互いに協力し、助け合いながら持続可能な校務運営を目指し、風通しがよく活力のある職場風土を醸成する。	学校自己評価	学校関係者評価
校長 本校在任年数	氏名	藤 菊英			2年	C
学校関係者評価委員会委員長	ふりがな	かわぐち みよじ				
	氏名	川口 三代次				

昨年度の成果と課題 【成果】キャリア教育の充実を図るために外部人材を活用したり、希望者を中心とした校外研修を実施したりすることができた。「産業社会と人間」総合的な探究の時間をはじめ各教科においても生徒のICT活用力が向上しており、プレゼンテーション力の向上が見られる。
【課題】大学入試の在り方が年々大きく変化してきており、それについての教員研修や保護者への情報発信を一層充実させる必要がある。

評価項目	目標及び具体的な方策等		学校自己評価	取組状況・成果・課題	学校関係者評価	学校関係者評価委員会からの意見等	今後に向けての方針・改善点
	目標	具体的方策					
教育課程	自ら考え、自ら学ぶ姿勢を持つ生徒を育成する授業実践を図る。	授業研修などを通じ、同じ教科だけでなく他の教科の授業を参考にしながら、教員の授業改善を促す。 観点別評価に対する教員の理解をすすめて、より生徒の主体的な学習につながる授業実践に向けて助言する。	C D	一斉研修を通して、他教科を参考にすることで授業改善につながった。 観点別評価については、完成年度ということではあるが、生徒の主体的な学習にはまだつながっていないので、改善が必要である。	B	・他教科を参考にできる研修の持ち方は良い取組と感じます。 ・特色化選抜方法の改善により今年度転退学者がいないことが評価できるとしています。 ・大学進学の実績が著しく向上しており、先年の京都大学合格や本年度の年内入試も早稲田大学や国立大学にも多数合格者が出ており素晴らしいと思います。 ・教育の基本を認識させることが大切だと思う。「(何のために勉強するのか)素晴らしい先輩の功績を紹介して福翔生としての誇りを持たせる。」	研修を通して、他教科の授業を参照できる機会を増やすことで、授業改善につなげる。 生徒の主体的な学びにつながる授業計画と評価の在り方を教科主任会の中で検討していく。
	学習指導	入試方法を改善して、本校の発展につながる生徒の確保を目指す。	特色化選抜入学者を領域毎で検証し、入試方法や入学後の指導を改善する。 特色化選抜入学者が抱える学校生活での課題を検証し、入学後のミスマッチがなくなるよう工夫する。	C C	過去五年間の入試領域別の入学者と進路を検証することで、入試方法の改善につながった。 今年度は特色化選抜入学者の転退学者がなかった。		過去3年間の特色化選抜入学者の進路調査を行い、課題を明らかにすることで、入試の方法や入学後の指導の改善に努める。
生徒指導	規範意識の高い生徒を育て、18歳から成人になる意識を持たせる。	自転車通学者に対し、登下校、駐輪、交通マナー指導を定期的に行い、主体的に行動できるようにさせる。 その場に応じた挨拶や状況に応じた適切な行動を身につけさせ、学校外でも地域の方々に愛される態度を育成する。	C C	11月から道交法が改正され、生徒に今年度登下校のマンの徹底を図った。朝の登校指導は毎日行ったが、事故やトラブルをなくすことはできなかった。今後も引き続き取り組んでいきたい。	B	・登下校のマナー指導、特に自転車について学校での指導の徹底は難しい面があると思いますが、生徒さん自身の安全を守る観点から心に響くことを願っています。 ・いじめ防止については未然防止のために双方のケアの必要性を感じます。 ・特に自転車通学者のマンの向上は今後大変課題と思う。ヘルメットの着用義務の徹底ができることを望んでいます。 ・特に地域との積極的な交流をされており、それに基づいた交通安全マナーの向上に学校あげて取り組まれていることに感銘を受けるべきものが多くありました。	交通ルールやマナーの徹底、ヘルメット着用の声掛けを引き続き行っていく。 挨拶の励行については生徒会役員との育成と合わせて全校で取り組んでいく。
	「福翔高校いじめ防止基本方針」に基づき、総合的かつ効果的にいじめ防止を推進する。	定例のいじめ防止対策委員会とその事務局会(週1回)において、未然防止、早期発見、早期解決の取組にあたる。 ネットによる被害者・加害者にならないよう、情報漏洩機器を適切に扱おうと身につけさせ、互いに認め、支えあう人間関係づくりを推進する。	B C	今年度から事務局のメンバーが増え、生徒の変化を共有することができた。いじめの対応はもちろんだが、未然に防ぐ取組を今後も行っていきたい。	B	・善悪の判断基準のズレが生じている。縦の問題である。(難しい時代ではあるが)いじめ防止の取組を推進する。 ・各学年の特徴を十分紹介して選択の幅を広げたい。 ・自転車事故の発生や被害者の生の声や動画等で伝えるツールや教材があるとより効果的と感じます。 ・いじめ防止の組織的な推進にあたっては担当する人員の配置・増員は大きな要素の一つであるため事務局の増員は有効な取組と感じる。	いじめ対応については、すべての職員に研修を深め、未然防止、早期発見、早期対応に研修を深め、日頃から生徒の様子についての情報交換を活性化を行う。
	生徒一人一人の進路保障を目指し、適切な指導・助言を行う。	生徒の進路保障のための課外や補習を計画し、生徒が入試に対応できる学力を身につけさせる。 英語・数学・小論文などの進路ガイダンスを積極的に実施したり、校内向けの進路指導研修会を適切に実施する。 職員に向けた研修会や保護者向けの説明会を通して、適切な情報提供を行い、生徒の進路実現に有益な情報を提供する。	C B C	3年生の放課後課外や土曜講座については概ね計画通りに実施できた。1・2年生については冬期補習をインフルエンザ流行のため途中で中止とした。進路ガイダンスは計画通りの実施ができ、職員研修会では、現状を踏まえ、生徒の志望動機を指導する際のポイントを共有できた。	B	・スタディサプリが有効に活用されるようになると効果が期待できそうです。 ・スタディサプリの活用については教員間、生徒間で活用頻度や関心に大きな差があるため指導者の意識を高める必要があると思います。 ・素晴らしい進路実績がすべてを語っていると思います。 ・充実した進路指導が都市型総合学科として唯一成功した例として貴重であると思います。 ・ICTのメリット、必要性、有用性を議論して前に進めます。	入試形態が多様化し、総合型選抜や学校推薦型選抜での受験者が増えているため、その指導が課題である。ここではスタディサプリの総合型選抜受験に向けた内容や小論文対策の内容を有効に活用し、指導の効率を高めた。
生徒・教師・保護者間の連携の充実を図る。	スタディサプリを活用し保護者向けの情報発信の方法を確立し、運用することで生徒の進路実現につなげる。	C	職員に向けた研修会や保護者向けの説明会を通して、適切な情報提供を行い、生徒の進路実現に有益な情報を提供する。			生徒向けにはスタディサプリの講義内容の情報を促し、既習範囲の復習に主体的に取り組み姿勢を促したい。保護者向けの情報提供については、進路指導課内での共通理解を進め、模擬試験や課外・補習の情報について、担当者から保護者へ直接伝えるような手順を確立していきたい。	
学校改革	サードステージ第3章の取組として、キャリア教育・授業や行事・部活動活性化をより充実させ、特色ある取組を積極的に発信する。	進学支援プログラム(特別文理・スポーツ文化・グローバル経営)や短期研修(関西難関大研修・海外異文化体験研修など)により実社会で活躍できる人材の育成を推進し、その取組内容を組織的に発表する。また、改革検討委員会で学校改革の方策について議論し、学校全体で改善を図る機運の醸成を図る。	B C	学校ホームページを新しくするなど、外部への情報発信について改善を進めている。 本校の特色を生かした取り組みを推進するとともに、その内容を学校教職員や生徒、保護者などにも周知する機会を今後も設定していく必要がある。	B	・DX化が積極的に推進されていることが確認できた。(電子黒板、3Dプリンターの導入など) ・各項目について先生方の説明を受け大変苦労と努力を感じた。福翔高校のレベルアップが今後も続くことを確信いたしました。今年度の重点目標の中で「すべては生徒のために」教育活動を行うことこそ一番重要だと思っています。すべての方針を組織的に取り組むようにはなりません。 ・歴史を感じることもできるホームページです。教育への期待が伝わります。	ホームページは新しくなったものの、学校の取組みを外部に発信するための資料の活性化をまだまだ推進する必要があります。今後改善の方策を検討する。改革検討委員会についても、多くの案件に取り組みむために提案から実施までの期間短縮のため、会議以外の活用など必要な方法を検討する。
	ジュニアアチーブメントプログラムなどキャリア教育や文部科学省の事業であるDXハイスクールの取組を推進するとともに、学校行事や授業などにおいても改善を図る。	ICTを効果的に活用し、授業改善や校務の情報化を進める。 学校における取組の目的を整理し、より充実した取組となるようカリキュラムマネジメントを検討していく。	C C	日々の連絡事項などについて、ICTを活用した取り組みを改善しながら行うことができた。 カリキュラムマネジメントに関しては、現在の取り組みを進めながら、全体の大きな方向性を共有しながら修正を進めていく必要がある。	B	・ICT機器活用と積極的にとり組みになりました。 ・文化理解や国際交流に積極的に取り組まれている国際社会に貢献できる人材の育成をされていると考えています。 ・社会に出るための有用性の認識を持たせる。(社会で活躍している先輩の体験談等を聞く時間を持つ) ・市民側からのアクセンシティブティンでも取組の発信、周知の面でも効果を感じているため、有効な取組だと感じます。実際に貴校の取組を拝見したことがわかりやすく発信されていると感じました。	ICTの活用については、技術の発展が著しいため学校全体、教科ごとの研究を通して授業改善を進めていく。また、総合学科としての取組や探究活動への全職員の共通理解を深め、学校全体の教育活動を活性化していく。
	アクティブラーナーの育成を図る。	1年次の「産業社会と人間」の授業を通して、目標設定力、コミュニケーション能力、意思決定力の育成を目指す。 「総合的な探究の時間」を通じて、2年次では論理的思考力、課題発見解決能力、社会への関心力、3年次では協働力、創造力、考え抜く力の育成を目指す。	C B	1年次の「産業社会と人間」2・3年次の「総合的な探究の時間」において身につけさせる能力を明確にし、生徒にも説明しながらキャリア教育を展開した。本年度はDXハイスクールに認定されたこともあり総合的な探究の時間にデータサイエンスなどの視点も加えながら授業を行い、一定の成果が出たと考えている。	B	・DXハイスクールの認定を受け様々な取組にチャレンジされていることに敬意を表します。お話を伺っているだけでもワクワクするものでとても刺激をいただきました。今後も大いに期待させていただきますと感じたところです。 ・3Dプリンターの活用は生徒の興味や関心も高く先進的な取組であると思います。今後も活用方法を発展させDXハイスクールとしての取組を推進されることに期待しています。	「産業社会と人間」及び「総合的な探究の時間」について本年度も身に付ける力を明確にして生徒に示しながら授業を展開していきたい。データサイエンスについては今年度、一定の成果が出た一方でデータ集約や分析の方法に課題も見つかったので今後ともカリキュラムマネジメントを実施し改善していきたい。
キャリア教育の充実	キャリア教育行事を通して人間関係形成・社会形成能力やキャリア形成能力の向上を図る。 キャリア教育プログラムなどの取組を通して自己理解・自己管理能力や課題対応能力を身に付けさせる。	C C	基礎的汎用的能力についてはキャリア関係の諸行事を通じて向上を目指した。行事に参加することでより能力の育成を行うことができたが行事によっては参加生徒が少人数の行事もあるため、今後は参加者を増やせるようにしていきたい。	B	・「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」を通してのみならず文部科学省がDXハイスクールに認定されていることを踏まえ学校の急速な進展に遅れないこと、最先端の教育実践がなされることを願っています。 ・キャリア教育を重視し、様々な取組を行っていることがうかがえる。	基礎的汎用的能力の充実に向けたキャリア教育の諸行事を通じて効果を検証し、整理しながら実施をしていきたい。また、総合学科として活用しているICTを活用するも生徒への周知の方法を改善しながら参加生徒を増やしていきたい。	

※ 学校自己評価は、5段階評価(A…目標を大幅に上回る達成度、B…目標を上回る達成度、C…目標どりの達成度、D…目標を下回る達成度、E…目標を大幅に下回る達成度)で成果や取組状況等について記すこと。

※ 学校関係者評価は、学校自己評価について5段階評価(A～E)で評価すること。